

コラボレーションは
攜手合作跨越

Product design × Odds & Ends

国も言葉も文化も
越える
的藩籬
國家語言和文化

取材・文/撰文 和谷尚美 N.Plus



台湾花蓮 翡翠珠寶
台湾花蓮 翡翠のジュエリー

迷いを吹き飛ばした アジアのクリエイティブとの出会い

2018年3月、メビック扇町のスタッフと大阪のデザイナー7名が台湾を訪れ、「台湾デザインセンター（TDC）」をはじめとするいくつかのクリエイティブ関連施設で現地のデザイナーたちと交流を図った。TDCは「台湾のデザインを海外に発信」「国内のデザイナーの海外での活動を促進・支援」「台湾と海外の企業・デザイナーのマッチング」などに取り組む組織で、これまで日本の企業・行政や

吹散一池迷惘 與亞洲文創的邂逅

2018年3月、來自Mebic扇町的工作人員及7位大阪的設計師一同造訪了台灣，並且前往以「台灣創意設計中心（TDC）」為首的多處創意設計相關據點，與台灣當地的設計師們進行了交流。TDC為一處致力於「將台灣的設計推廣至國外」「促進並協助國內的設計師於國外進行活動」「媒合台灣與外國企業及設計師之間的合作」的機構，至今亦籌畫過許多與日本企業、政府機關

デザイナーとのさまざまなプロジェクトにも携わってきた。「同じアジアでも文化や産業の違いによって、デザインを考える角度も変わります。日本のデザイナーや企業とコラボすることでお互いの文化を知ることができればという思いから、交流の促進に取り組んでいます」と、産業コンサルティング部門のマネージャー、吳於軒（ビビアン・ウー）さん。滞在中、TDCに加盟しているデザイナーとメビック扇町のメンバーによるデザインプレゼンが実施され、双方のクリエイターにとって大きな刺激となった。そして、このプレゼンに参加していたのがプロダクトデザイナーの南大成さんだ。この時が、今回のコラボのパートナーとなる韓世國（ランス・ハン）さんとの出会いとなった。プレゼン後は次の訪問予定があり、十分に話ができなかったものの、2人は1ヶ月もしないうちに再会を果たすことになる。

及設計師之間的各種企劃案。產業顧問部門經理吳於軒（Vivian）表示：「即使同樣身處亞洲，由於文化和產業的不同，思考設計的角度也會隨之改變。因此我們藉由和日本的設計師及企業合作，認識理解彼此的文化，並基於這樣的想法來積極促進雙方交流」。在造訪台灣的期間，加盟TDC的設計師們與Mebic扇町の成員相互進行設計簡報，也帶給彼此相當大的刺激。參與這次簡報活動的產品設計師南大成先生也在這時認識了本次交流活動的主要成員韓世國（Lance）先生。由於南先生在簡報交流結束還有下個拜訪行程，因此兩人無法充分地暢談，然也因此促成了兩人在短短不到一個月後再次會面的契機。

原本南先生會成為這次的訪台成員之一，其實是由於在日本國內的設計相關展會中無法取得所期待的成果。2017年，當他參與國際藝術展會「UNKNOWN



台湾デザインセンターでは企業とデザイナーのマッチングやフリーランスの支援などを行なっている。
左よりビビアンさん、ランスさん、南さん、宋同正（デビッド・スン）執行長、林鑫保（オリバー・リン）副執行長、簡思寧（アイシス・ジエン）さん。
於台灣創意設計中心進行企業及設計師之間的媒合活動及自由工作者支援活動剪影。
由左起為吳於軒（Vivian）、韓世國（Lance）、南、宋同正（David）執行長、林鑫保（Oliver）副執行長、簡思寧（Isis）。

そもそも南さんが今回の訪台メンバーに加わったのは、国内のデザイン系展示会への参加が期待する結果に繋がらず、自身の表現方法に迷いを感じていた2017年に出版した国際アートフェア「UNKNOWN ASIA」がきっかけだった。「UNKNOWN ASIA」で出会ったアジア特に台湾のアーティストは、気持ちを感じる方々ばかりだったんです。ただキレイなだけじゃない、感情を表した作品が多く衝撃を受けました。当時も今も“キモチをカタチにするデザイン”というのが僕のデザインのテーマとしてあるので、彼らの姿に“これで良かったんだ”と背中を押され、台湾のデザイナーに会って学びたいと思うようになったんです」

衝撃を受けた「UNKNOWN ASIA」から数ヶ月後、南さんの元にメビック扇町から台湾訪問の話が舞い込む。まさにベストなタイミングで訪れたチャンスに、迷うことなく参加を決めた。

デザイナーとして互いに共鳴し コラボレーションがスタート

一方、台北で十数名のデザイナーを抱えるデザイン事務所を運営しながら自身もデザイナーとして活躍しているランスさんは、海外のさまざまなデザイナーや企業と協働し、現在もグローバルに展開するプロジェクトをいくつも手がけている。プロジェクトは、再生資源を活用したクリエイティブや海外のマーケットを視野にいたしたものも多く、南さんは、そういったランスさんのグローバルな視点や社会問題を意識したデザインに魅力を感じたという。「リサイクルマテリアルの使用や環境問題、文化的課題を解決するための本質的なデザインをされているところが素晴らしいと思いました。それと常に視点が海外を向いているところも自分の海外志向と合致したのかもしれない」。またランスさんにとっては、南さんの「細部まで考え抜かれた日本人らしい繊細なデザイン」が印象的だったという。



ASIA」の展出時、曾一度對於呈現自身作品的方式感到迷惘。然而同時，南先生也在本次展會中結識了許多台灣的設計師。「在“UNKNOWN ASIA”認識的亞洲設計師，特別是台灣的設計師，每一位都令我留下了深刻印象。他們的作品不僅是外觀華麗，更多的是情感上的呈現。而當時的我和現在的我一直都把“心境化為具體設計”作為自己的設計主題，接觸了他們所呈現出的風格後，也等於為我自己打了一針強心劑，於是我才會想到要前往台灣取經學習」。

在「UNKNOWN ASIA」展會上受到震撼後又過了幾個月，南先生接到了Mebic扇町將組團前往台灣訪問的通知，對於這樣一個來得好不如來得巧的天賜良機，南先生當然當機立斷地決定一同前往。

設計師彼此激盪的共鳴 雙方攜手創作由此啟程

另一方面，以台北為據點，負責一處擁有十多位設計師的設計事務所，且本身同樣以設計師活躍其中的韓世國先生，目前也和國外多位設計師及企業有業務往來，並且同時著手進行多項全球性的企劃。這些企劃當中有許多運用再生資源所製作的文創商品以及以國外市場為取向的案件，而南先生也為這樣的全球性視野及意識到社會問題所進行的設計深受吸引。「使用再生資源及為求解決環境及文化問題所進行的設計令我覺得十分佩服。加上時刻將視野投向國外這一點也和



ランスさんは台北市内にあるオフィスの近くで各国のデザイナーの作品が購入できるカフェも運営している。Lance於台北市内の事務所附近所經營的一處可購得各國設計師作品的咖啡廳。

TDCでのプレゼンの1ヶ月後、南さんが台湾を再訪し、ランスさんと再会。現在進行形のプロジェクトについて意見を交換したり、互いのビジネスやデザイン観について語り合った。このときランスさんが手がけていたのが今回のコラボとなったプロジェクト「花漾好 Hualien Goods」である。台湾屈指の石の産地である花蓮市で、加工の過程で生じる石屑を利用して商品をつくるこのプロジェクトでは、台湾、タイ、中国、韓国などアジアのデザイナーがそれぞれジュエリーをデザインし、各国で販売することで花連の翡翠を海外に広めること、そして本来なら破棄される石屑の再利用を目的としている。「資源を無駄にせず運用して新しいモノを生み出すのはデザイナーの義務」。そんな信念を持つランスさんは、南さんにプロジェクトの日本担当としてデザインを打診。「南さんも同様の考えのデザイナーだと思いましたし、彼のストレートでパワフル、それでいて非常に繊細なデザインも魅力でした。それと何事にも自発的に動く人なので、こういうパートナーがいれば心強いと思ったんです」。南さんの帰国後、ランスさんから南さんに正式に依頼があり、コラボレーションがスタートした。

我希望向國外發展的想法不謀而合」。而對於韓先生而言，「連十分微小的細節也不放過，充滿日本人風情的細膩設計」也令他印象深刻。在TDC的相互簡報交流活動結束的1個月後，南先生再度造訪台灣並與韓先生相見歡，雙方針對目前正在進行中的企劃案交換意見，也深談了關於彼此的業務內容及設計觀點。此時韓先生正在進行的企劃案之一，同時也是後來雙方展開合作的正是「花漾好 Hualien Goods」。在這項以台灣玉石產地而聞名的花蓮市所進行，利用加工過程產生的石屑來製造商品的企劃當中，包括了台灣、泰國、中國、韓國等亞洲各國的設計師均共襄盛舉參與珠寶設計，並且於各個國家銷售，藉此打開花蓮翡翠的國外知名度。而原本此企劃的目的就是再次利用破碎將丟棄的石屑。「不浪費資源而加以運用來創造出新事物，正是設計師不可規避的義務」。擁有這般信念的韓先生，於是便向南先生詢問是否可能擔任本企劃的日本負責人。「我覺得南先生是一位和我有著相同想法的設計師，他的作風直率而且充滿能量，但卻能創作出極為細膩的設計，這一點我覺得相當具有魅力。此外他也是一個相當積極自發的人，如果有這樣的合作夥伴，我想應該會是如虎添翼才對」。在南先生回國後，韓先生便正式地向他提出委託，雙方便由此跨出了合作的第一步。



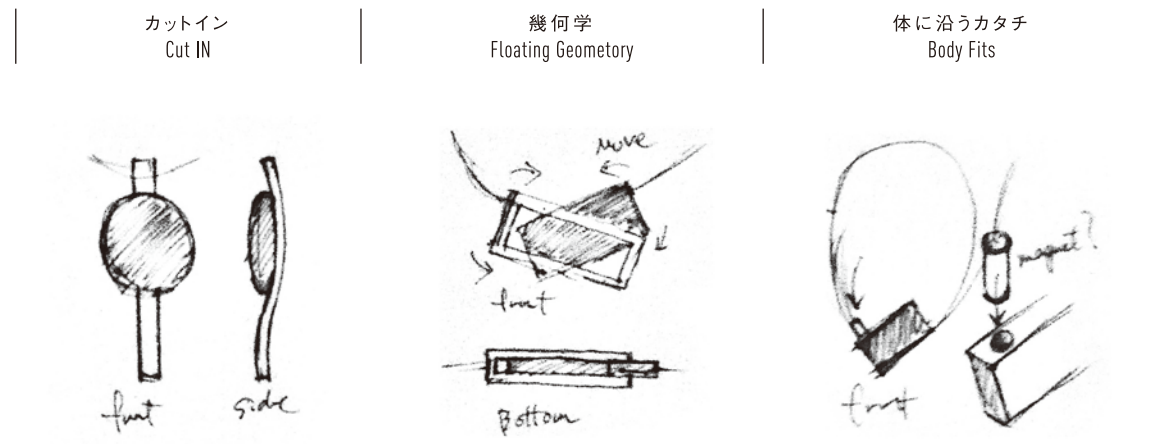


ロジックと造形美を両立させた 3つのコンセプトとデザインを提案

デザインに関してランスさんから南さんに対するオーダーは「花蓮の翡翠を使ったネックレスのデザイン」。この一点のみだった。「あまり要求しすぎると南さんのデザインではなくなりますし、あくまでコラボレーションですから、デザインはすべてお任せです」。そんな自由度の高い環境で南さんが提案したのは「カットイン」「幾何学」「体に沿うカタチ」という3つのコンセプトとデザイン。重視したのは石が一番キレイに見えること、そして今の市場に受け入れられることだ。「お土産物屋さんでよく見る翡翠の勾玉アクセサリーは角を落としすぎていて、デザインの若い人に受け入れられにくいと思ったので、そこを解消することと、翡翠は光によ

兼具邏輯性與造型美 3大概念與設計之提案

韓先生委託南先生進行設計時唯一的要求是「設計使用花蓮翡翠的項鍊」。「如果我要求的內容太多，南先生的作品就會失去他原有的設計感，加上我們僅是屬於合作關係，因此我覺得應該將整體設計全盤交由他來負責才對」。而在如此自由的設計氛圍中，南先生提出了「cut in」「幾何學」「人體工學造型」等3個設計概念。重點則置於如何呈現最重要的玉石之美，以及如何讓現今的市場能夠接受。「在紀念品店經常可見邊角切削過度平整的翡翠勾玉飾品，我認為這樣的設計不容易讓年輕人接受，因此除了解決這個問題外，我瞭解翡翠會因受光差異而產生



南氏が最初に提案した3つのコンセプトとデザイン 初期提案書より一部抜粋。
此為南先生最初所提案的3大概念及設計初期提案書之部分內容。

て見え方が変わるところがとてもキレイだったので、石本来の魅力が伝わるデザインを心がけました」。入念な市場調査に基づいた論理的かつ、美しいデザインにランスさんは驚いたという。「ここまでしっかりとしたコンセプトを最初に持ってきてくれるデザイナーさんは珍しいですし、シンプルで簡潔なデザインは市場に合致していると思いました。もともとプロジェクトが始まった時に私たちが直面した課題——つまり、翡翠自体が宗教的なツールとして扱われていることや、アクセサリにしてもお年寄りだけに好まれる傾向にあったということと、南さんの考えてくれた方向性が完璧に一致していました。そして、もともと独特な性質のある翡翠は複雑な加工や飾りを施さなくても十分に美しいと考えていたところ、石の特性を発揮するデザインがあがってきたので「さすがだな」と思いました」



ランスさんの事務所には語学が堪能なデザイナーが多く、海外展開がしやすい環境が整っている。左よりランスさん、陳莞蓓（ペギー・チェン）さん、單楨芝（アリス・シャン）さん。Lanceの事務所に有多位擅長各國語言的設計師，對於國外拓展業務可提供充分支援。由左起為Lance、陳莞蓓（Peggy）、單楨芝（Alice）。

Hualien Project

TYPE-A : CRRECT



TYPE-B : CRCR



TYPE-C : RECTRECT



TYPE-E : RECTCR



製品化前の3Dレンダリング。ネックレスとピアス、2wayでの使い方を想定。
商品化前の3D彩現。設定項鍊及耳環2種用法。

同じ課題を違う視点でカタチにする。 それがコラボの醍醐味。

2人が出会った2018年3月から2ヶ月後の5月にプロジェクトがスタートし、同年9月には試作品をタイの展示会に出品。現在、商品化に向かって進んでいる。会って間もない、さらに言語も文化も違う相手とのビジネスに不安はなかったのだろうか。「プレゼンの翌月に再会して話した時にはもう信頼関係ができていたと思います。僕は以前、たくさんさんの異業種交流会に参加して、そこで会った人に騙されたりしたこともあります。メビック扇町で年間200〜300人に会って、人を見る目が養われたかもしれませんね」と南さん。そしてランスさんも言う。「私も騙された経験はありますが、まず信じてみないとにも始まりませんよね。ただ、南さんに関しては私も数回お会いしてすぐに信頼関係ができていたと感じています」

現在2人は、桃園市文化局のプロジェクトの一環である「大溪区の木工製品と日本の伝統技術のコラボレーション」に取り組んでおり、2人の出会いであるメビック扇町の台湾訪問をきっかけに、他のクリエイターたちによるコラボもすでにはじまりつつある。同じ課題を違う国の視点でカタチにすることで新たなクリエイティブと価値が生まれる—そんなコラボの真髄を体現すべく、メビック扇町では今後も台湾のクリエイティブ界との交流に力を注ぎ、大阪のクリエイターの海外展開を支援していく。



石の魅力を引き出すデザインは
タイの展示会でも高い評価を受けた。

引出玉石魅力之設計在泰國的展覽會上亦頗受好評。

們就面對了一項課題，那就是翡翠本身是一種被視為帶有宗教意涵的工具，而且喜好翡翠飾品的人較偏向高齡族群，在此項課題上，南先生設計的方向性和我們的想法可謂是完美契合。此外，我也認為原本便具有獨到特色的翡翠即使不添加複雜的作工，即能充分呈現出其原有的美麗。而南先生能基於此點將玉石特色發揮得淋漓盡致的設計著實令我覺得“真有一套”。

透過不同視點來形化相同課題 這就是攜手創作的醍醐味

二人在2018年3月認識後，便在短暫經過2個月後的5月份開始合作執行企劃，同年9月即把試作品帶到泰國的展覽會上展出，目前則持續朝商品化努力中。由於兩人認識至今時間不長，加上語言及文化上的差異，在合作進行業務上可以想見彼此均會感到不安。但南先生卻表示「簡報過後的隔月與韓先生再次見面時，我覺得我們之間已經有了信賴關係。從前我曾經參加過許多不同業界的交流聚會，也曾當中被欺騙過，如今想想，或許是在Mebic扇町裡每年和200〜300人碰

面的過程中，逐漸培養出了識人之明也說不定」。韓先生也表示「我本身也有過被人欺騙的經驗，但我依然認為如果不先試著相信別人，任何事情都無法起步。不過和南先生之間倒是讓我覺得即使只見過幾次面就已經建立起信賴關係了」。

目前二人正投入桃園市文化局主導的「大溪區木工製品與日本傳統技術合作」企劃當中，以成為兩人邂逅的Mebic扇町造訪台灣一事為契機，其他的設計師們也逐漸展開了各種形式的日台合作。透過不同國家的視點來將相同課題形化，藉此創造出嶄新創意及價值—為了展現出跨國合作的精髓，Mebic扇町今後也將持續致力於與台灣文創界之間的交流，並且協助大阪的設計師們繼續往國外拓展業務。



HIROMINAMI.DESIGN
(合) Arlequin Product

南 大成 氏
プロダクトデザイナー/代表社員
產品設計師/代表社員

大阪市西区立売堀1-5-2
立売堀bldg. 5F 64
<http://hirominami-design.com/>

鹿児島県出身。英国でデザインを学び、2011年に独立。「生活者視点のデザイン」を理想に掲げ活動中。

鹿児島県出身。於英國攻讀設計、2011年自立門戶。以「生活者視點設計」為理念進行活動中。



Taiwan-Dot Design Co., Ltd.
點睛設計有限公司

韓世国 (ランス・ハン) 氏
プロダクトデザイナー
產品設計師

台北市大同区甘州街48号
<http://www.ddoott.com/>

2003年 DotDesign設立、デザインに軸足を置き、オリジナルブランドも展開。様々な素材の組み合わせと量産プロダクトを得意とし、国際ブランドとデザインの異業種コラボにも積極的に参画。より良い未来を願い、循環型経済をテーマに活動。

點睛設計成立於2003年。專注於設計服務。擁有DotDesign品牌。擅長不同材質結合與商品量產。積極參與國際品牌與設計跨界合作。主張循環經濟議題，希望創造更美好的未來。

財団法人台湾デザインセンター
財團法人台灣創意設計中心
(Taiwan Design Center, TDC)

台灣創意設計中心
TAIWAN DESIGN CENTER

台北市信義区光復南路133号
(松山文創園區内)

<http://www.tdc.org.tw/>

台湾政府がクリエイティブ産業の推進を図るため、2004年に立ち上げた国家級デザインセンター。

台湾政府為推動文化創意產業發展，於2004年正式啟動營運之國家級設計中心。